

有限会社 桜庭工務店

ユーザー訪問

柳田 様邸

- 弘前市親方町
- 2010年2月竣工
- 延べ床面積／33.37坪(110.54㎡)
- 使用青森県産材／スギ(柱、内装材)、ヒバ(土台)など。



酒店『柳田商店』の裏に、ご両親の住む家を新築した。

足にやわらかな木の床
「体にいいような
気がするね」

母親の話 家に入ってくる
と、皆さん、木の匂いがある
てね。壁にも木が張ってある
し、床も木だし。足元がやわ
らかいし、あつたかいから、わざ
とスリッパを置いてないん
ですよ。

前までは店の2階に住ん
でいて、階段や廊下の床が冷た
いのでスリッパをはいてた
んだけど、いまは木の床だから、
体にいいような気がするね。

それと、これ、気に入って
ですよ。玄関に置いてる木の
腰かけ。家に帰ってきたとき
に、座れるし、買い物袋も置
けるし、重宝ですよ。それとこ
れ、トイレの棚。木の色が良
くてね。大工さんが作ってく
れたんですよ。

ご主人(息子さ
ん)の話へ隣接

する酒店『柳田
商店』の店内で
インタビュー

自宅を建て
ることになっ
て、あれこれ検
討した結果、数
社の中から最

最終的に桜庭工務店を選んだ
—というわけではありません。
桜庭さん(桜庭尚利社長とは
もつすつと以前からの古い
お付き合いなんです。

自宅といっても、私たち夫
婦が住むのではなく、この酒
店(柳田商店)の2階に住ん
でいた両親が、だんだんと階段
の上り下りが膝の負担になっ
てきていきましたから、店の裏
の物置を解体して、そこに両
親が住む家を建てることにし
たんですよ。ほんの親孝行のつ
もりです。

自宅を建てる5年前(20
05年)にも、桜庭さんに頼ん



道路に面する酒店。ご両親の家はこの裏に

で店を大改修しました。リ
フォームですね。隣の敷地が
売りに出されたので、買って、
駐車場にすることにしたんで
すが、そうなるって、店舗はも
とと父が50年も前に雑貨屋と
して始めた建物ですから、古
くなつた外壁が人目にさらさ
れることになるし、外だけで
なく内側もあちこち傷んでい
るので大幅に直すことにした
んです。

でも、桜庭さんとの付き合い
いはそのときから始まったの
ではなく、いまから20年ほど
前にさかのぼることになりま
す。当時、うちの店で企画して



いました『ワインをたのしむ会』という集まりに、桜庭さんが友だちに誘われてやってきたんです。まじめな大工さんという印象を受けましたね。

第一印象のとおり、店舗の雨漏れとかの補修を頼めばすぐにきてきちんとやってくれました。それから、ちょっとしたことみな桜庭さんに頼むようになりました。店を大改修する何年前にも、小規模の改修をしたのですが、も

ちろんそのときも頼みましたし、そんな付き合いですから、今回の家の新築を頼んだのも当然のなりゆきでした。

記念樹を 切らずに残した 『桜を見る家』

裏の物置を解体したときに、桜の木をどうしようかと迷ったんです。切ってしまうと、その分、土地が広く使えて、もう少し家も広く建てら



古材の柱や梁を利用した店内



存在感のある大きな梁が印象的なリビングルーム

れるのですが、そしたら桜庭さんが「残そうよ」って。実はその桜の木、長男の誕生を記念して植えたんですよ、24年前にね。「記念樹なんだから残さなきゃ」って、そういうところを大事にしてくれるんですよ、桜庭さん。この家に『桜を見る家』っていう素敵な名前も付けてくれました。

桜庭さんが提案してくれたのは桜の木の件だけじゃありません。大改修した店舗内に古材の柱や梁を使ってくれて、レトロな、いい雰囲気



リビングの上の採光たっぷりの2階の洋室



記念樹として残された桜の木



照明や玄関の腰掛け、造り付けの洗面台などにも細かな気遣いが感じられる

たんだそうです。隣の土地を
駐車場にしたので、それまで
車庫にしていた部分も店舗と
して広げることになったんで
すが、そこに古材を使ってく
れたのです。テレビで古民家

を改装して始めたという居酒屋とか喫茶店が紹介されますでしょ、あんな感じですね。並べている酒瓶もなんだか年代もののように見えますよ、お客さんに好評ですよ。

小さな仕事でもきちんとしてやっていると、いずれ大きな仕事につながる。そういうことだと思っんですよ。それは大工さんだけじゃなく、私もこの町内で長年、酒屋をやっていますから、お客さんとのつながりを大事にしていなくて、大型店の安売り攻勢に太刀打ちできなくなってしまう。あのお客さんはあの銘柄のお酒が好みだから品切れになりそうになったらすぐに補充しておく、とかね。同じ町内に住む人と人のつながりですよ。そこが地元の強みです。

家づくりも、商店も、地産地消って、地元でのつながりを強くすることだと思っんですよ。



『気創りの家』

有限会社 桜庭工務店

弘前市大字外崎4丁目2-6

TEL.0172-27-4320 FAX.0172-27-4325

http://saku-kou.com

E-mail:sakura52@amber.plala.or.jp



三八地域県産材で家を建てる会

八戸ポータルミュージアム『はっち』

- 八戸市三日町
- 2011年2月オープン
- 延べ床面積/1956.28坪(6,480㎡)
- 使用青森県産材/アカマツ、スギ、ケヤキ、ナラ、イチイ。



八戸市の繁華街、通りをはさんで商業ビルが建ち並ぶ三日町の一角に、ガラス張りの新しい5階建てのビルが誕生した(2011年2月)。八戸市が市中心市街地の活性化を図る拠点施設として建設した八戸ポータルミュージアム『はっち』だ。外壁にはめ込まれたガラスを通して外からも内からも互いに様子が見えるようにして街との一体感を演出した近代的なビルだが、中へ入ると、斬新な外観からは想いもよらない、内装に県産木材を多用した癒しの「木の空間」が広がっている。

「公共施設の内装に県産材」
街なかの森林」
田中会長の話 「家を建てる会」が、民間の木造住宅ではなく、公共施設の『はっち』の内装工事を引き受けることになったいきさつについては、会の発足時までさかのぼって説明しなければなりません。

『三八地域県産材で家を建てる会』ができたのは7年前(2003年)のことです。名称は『家を建てる会』となっていますが、前身は、その前年に旧三戸地方農林水産事務所に勤務していた職員の発案で結成した『八戸駅に県産材のベンチを置く会』です。県産木材の使用拡大を主眼として、スギやアカマツ、ケヤキなどで製作した32基のベンチを、東北新幹線の八戸駅構内や自由通路に



木レンガを貼ったウェーブを描く壁面(ガイドブック表紙)

設置しました。

県が2003年に、青森スギの需要促進策として、基準の使用量を満たした住宅建築を対象に1戸あたり20万円を補助する新事業を打ち出し、三八地域では、その応募の窓口となる団体として『ベンチを置く会』が『家づくり会』へスライドしたのです。

この『ベンチを置く会』に



アカマツの床に腹ばいになって本が読める『こどもはっち』の絵本展望台

も、さらに前身があります。三八上北流域林業活性化センターの下部組織としてあった『アカマツ部会』がそうです。県南を代表するアカマツの消費を増やそうと10年前に立ち上げたもので、そのときに参集した顔ぶれがほぼそのまま



現在の家づくり会の会員になっています。

アカマツ部会から始まって、県産材を使った初めてのものづくりがベンチの製作でしたが、それを皮切りに、八戸市庁の広場の東屋も建てましたし、『はっち』の向かいにある八戸屋台村『みろく横丁』の入口の門も作りました。また八戸市の『みなと博覧会』へ県産材で製作した屋台を運んで行って木の切り株を売ったりと、いろいろやってきました。が、これまでのそうした活動を通じて知り合った方々とのつながりから、今回の大規模な公共工事の下請けとしての仕事に結びついたものと考えられています。

八戸市に今年度(2010年度)から農林水産部が新設されまして、公共施設の建築材に南部アカマツなどの県産材を積極的に使う方針を打ち出したことも追い風になりました。

木に親しめる 交流の『場』

地産地消の意義発信

『はっち』は、漁港として栄えてきた八戸の歴史をはじめ、街の発展に尽くしてきた人物

や、三社大祭、えんぶりの紹介など、階ごとにテーマを分けて情報発信をしています。木に親しめる空間は4階にある『こどもはっち』です。120坪の広々とした床一面に南部アカマツの板を張って

います。一部にはナラも敷いていて、子どもたちに裸足で走り回って木に触れ合ってもらおうという趣向です。貝を連想させる渦巻きのかたちをした『絵本展望台』では、アカマツの床に腹ばいになりなが



炉も、にじり口もある『こども茶室』



スギで作った屋台



アカマツのイス

ら本が読めます。それから、小さいながらもちゃんと『にじり口』が付いた『こども茶室』もあって、窓から眺める庭園の庭石も、木を削って製作したものです。こども支援セン



八戸の歴史的著名人を紹介する文人ロード



『こどもはっち』の音を奏でる木のおもちゃ

ターにもなっている『こどもはっち』は、親も子どもたちと一緒に木に親しめる空間になっているのです。

2階には、波のようになっている、木の壁があります。『木(もく)レンガ』といっています。大工さんが1個1個手作りした2500個もの木のレンガを、壁に貼り付けたのです。ア

カマツ、スギ、ケヤキ、ナラ、イチイの5種類の木は、すべて県産材です。レンガ一つの横幅はだいたい同じサイズですが、厚さが、薄かったり厚かったりバラバラなので、かたよることなく、色合いのバランスも見ながら、平面ではない、波のようにつなげた曲面に一人で貼るので、1か月

半もかかりました。うねる海原のようにウエーブを描くこの木の壁も味わいがありますよ。

地元の木を知ってもらい、親しんでもらい、ひいては家づくりの木材として使っていただく。地元の木を、地元で消費することが、山を守ることになります。それが地域を育てることにつながります。地産地消のその意義をしっかりと踏まえていないと、外材が安くなればすぐにまた安い方へ走ることを繰り返すことになります。

山の木と、人と、地域とは一体です。『はっち』から、そのことを発信していきたい。

【会員】田中林業、アルゴ建築設計室、(有)赤穂工務店、八戸チップ工業(株)、(株)南部木材、(株)山崎木材、八戸市森林組合、(株)山道建設、(有)松原建設、(株)大上木材、(株)東興林業、(株)アカイシ、(株)高橋林業、(有)下田塗装センター、(株)フルサト、(有)赤坂鉄工所、八戸エコサイクル協議会、八戸工業大学(建築工学科)

地の木 地のひと 地の家づくり

三八地域県産材で家を建てる会

事務局 ● 八戸市森林組合 / 八戸市卸センター2丁目4-21

TEL.0178-21-8157 FAX.0178-20-2618

<http://www.geocities.jp/iezukuri38/>

E-mail : iezukuri38@yahoo.co.jp

有限会社大坊建設

ユーザー訪問

前川 様邸

- 三戸郡田子町土橋
- 2010年4月竣工
- 延べ床面積／52坪(172.24㎡)
- 使用青森県産材／スギ(柱、母屋、桁、床など)アカマツ(梁)。



借家がわりに 展示場で生活

スギのやわらかさ実感

ご主人の話 高校を卒業後、長野県の会社に就職して田子町を離れましたが、それからしばらくしてUターンしたら、同じ高校の同期生だった大坊(大坊幸吉社長)と卒業以来十数年ぶりで再会したんです。大坊(社長)は高校時代、生徒会長をしていて、生徒会長を務めればたいがい役場に就職するので、彼もてっきり公務員になっているものとおぼかり思っていたら、想いもしていなかった工務店の社長に なっていると知ってびっくりしました。われわれが卒業した年には、どういうわけか役場から募集がなくて、それで彼は地元の大工の棟梁に弟子入りしたんだそうです。

工務店の社長になっていた彼と再会した時点で、その後、新築することになった自宅の



やわらかく心地よいスギの床板が敷き詰められた居間

工事を彼に頼んだのは自然のなりゆきでしょう。宿泊体験ができるという大坊建設の住宅展示場を、工事期間中に借家がわりに貸してくれましたし、その展示場で生活しながら大坊(社長)が奨める無垢の木の家の良さ、特にスギの床のやわらかい心地よさが実感できましたね。表面がやわら

かいから、あたたかく、心地よいのであって、表面が堅ければキズはつきにくいでしょうが、反面、心地よさはありません。そこが無垢の木の特性なんです。

ら大坊(社長)の話 うちでは、木を多く使う家づくりを心がけています。地元の木ですね。無垢の木。一般に県内の木造住

居間



がっしりとした木の階段と薪ストーブが調和している居間の一角

宅の木材費は総工費の約1割といわれていますが、前川さんの家には木材費が2割近くかかっています。それらの木材は、壁の中に隠してしまう（大壁）のではなく、真壁にして、見せて使います。見せる（現わす）ということは、それだけ木目の良い木を選んで使わなくてはなりません。柱だ



縦横に張り巡らされたアカマツの梁

けでなく、梁も現わしですから同じです。無垢の木を、現わしにして使うということは、木を選ぶ目と、木の良さを引き出す大工の技術が要求されるのです。

ご主人の話 家を建てるときに、父から、「あのエンジニアの木、使わないか」と話がありました。祖父が植えたもので、そ

それが台風で倒れたんです。倒れたままになっていて木がもったいなかったのでしょう、それで新しい家のどこかに使えないものかって。大坊（社長）に相談したら、吹き抜けの2階の手すりに使ってくれることになりました。それで、畑の端のほうに倒れているエンジュの木をトラックに積み込みにいったんですが、

いやはや重いなんのって、私と大坊（社長）とで持ち上げようとしても重すぎて、父にも手伝ってもらってようやく積むことができました。木の目が細かいというか、密度が高いというか、コンクリートの柱みたいに腰に堪える重さでした。でも、おかげで、爺さんの植えた木がわが家に生かされてるっていう気持ち



室内は県産材がふんだんに使われている



2階の吹抜けの手すりに使われているのは施主の祖父が育てたエンジュの木

あって、どことなくあったか
いじやよ。

化学物質発生しない 無垢の木の家

ご主人の話 室内の換気をつ
けっ放しにするという、例の
『24時間換気』の設置が義務付
けられたときに、なんかおか
しいなって思ったんですよ。
ビニールクロスを貼り付ける
ときに使うノリから発生する
化学物質が原因でシックハウ
スが問題になったものだけ

ら、室内の空気中から化学物
質を取り除くために一日中、
年から年中、電気を使って換
気扇を回しっ放しにしなければ
ならないなんて、やはり、不
自然ですよ。停電になって
換気扇が止まったり、故障し
たりすれば、家が窒息死する
ようなイメージがあります。
であれば、簡単なことで、化学
物質を発生しない、結局は昔
の木造の家みたいに、クロス
を貼らない、無垢の木を使え
ば、なにも換気扇を回さなく



家を支える県産材の大黒柱

ても窓を開ければ簡単に換気
できますしね。そう思ってた
るとき、インターネットで24
時間換気を調べてたら、(偶
然にも以前住んでいた)長野
県のある工務店が24時間換気
に疑問を呈していたんです。
おかしいと。大坊(社長)にそ
のことを話したら、「行ってみ
よう」ということになって、二
人で高速飛ばして見学してき
ましたよ。

大坊社長の話 24時間換気つ
て、大手ハウスメーカーのビ
ニールクロスを使った家づく
りを後押しする措置なんです
よ。でも、どう考えたって換気
扇をつけっ放しにしなければ
ならないなんていう不自然さ
は家を建てるお客様たちもう
すうすう感じてきて、そのこ
ろからじゃないですかね、何
も害がない、無垢の木を使っ
た本来の家づくりが見直され
るようになったのは。

結局は、自然の姿に戻るん
です。



有限会社 大坊建設

本 社 ● 三戸郡田子町大字田子字下田子69-4
TEL.0179-32-3580 FAX.0179-32-3582
http://www.ii-ie.net/daibou/
E-mail: kouki299@leaf.ocn.ne.jp

八戸営業所 ● 八戸市下長5丁目9-9
TEL.0178-28-2798 FAX.0178-21-3558



玉田工務所

ユーザー訪問

三浦友久様邸

- 五所川原市一野坪
- 2005年5月竣工
- 延べ床面積/40坪(132.49㎡)
- 使用青森県産材/スギ(外壁、床)、地松(玄関土間)など。



田園地帯を伸びる道のかたわら、前面に広い庭を配置して、黒色の板壁に大きな窓をはめ込んだ平屋の家が建っている。スギの板を打ち付けた外壁、平屋建て、窓が木製の枠——この三つの要望を適えた三浦友久様邸だ。板敷きの広いリビングから、掃き出しの窓越しに、ご主人お気に入りの岩木山が田園に浮かぶようにまるごと見えている。

岩木山が見える暮らし

新築計画は

土地探しから

ご主人の話 まず土地探しから始まりました。東京での生活が長かったので、退職したら、田舎に移り住んで、山の見えるところに家を建ててのんびり暮らそうという計画でした。私は高知の生まれなんです。私に馴染んだ山といえませんが、高知からずつと北に離れた岩木山なんです。という

のも実は、家内が五所川原市の出身でして、毎年、盆とか正月には実家に顔を出していましたが、その度に眺めているうちに、いつの間にか親しい山になっていましたね。ですから、岩木山が見える場所を第一条件にして、五所川原に帰ってくるたびに土地を見て歩きました。

土地探しと並行して、工務店の情報も集めてたんです。雑誌とかネットですね。五所川原に帰ってきていたときに、書店で見かけた住宅雑誌を開



スギの外壁に映えるアンティークな色彩の玄関ドア

いてみたら、外壁に板を張った家の写真が目にとまりました。イメージにどんびしやりでした。板壁で、平屋で、窓枠が木。イメージしてたのはスウェーデンハウスだったんです。よ、それにどんびしやり外観が重なりました。

建てた工務店が、玉田さん(玉田工務所)でした。東京に戻ってから玉田さんのホームページを拜見して、メールしました。そのあとまた五所川原に帰ってきたときに、玉田さん(玉田健悦棟梁)に会いに

弘前まで行ったんです。

ふつう、住宅の見学会なんか顔出すと、営業の人が愛想笑いして、これもこれもってパンフレットやカタログをくれるじゃないですか。「先日はどーも」ってさっそく訪ねてきますしね。ところが、初めてお会いした玉田さん、愛想笑いなんてまったくなくて、「ほかの現場やっってる最中だから、すぐには建てられませんが」って、いまだから言えませんが、建てる気持ちがあんまりないような感じだったんですよ。でも、それがかえって、いかにも家をじっくり建てる職人さんらしいって思われてきたんです。それは家内も同感のようでした。

奥様の話 玉田さんが建てた家の写真を（雑誌で）見てイメージがぴったし合ったんだから、きつと建てた玉田さんとも合つはずだって思いましてね。愛想のいい人って、裏があったりしますけど、飾らな

い人って信頼できますよね。玉田さんにお願ひすることに決めたら、気持ちが入つと楽になりました。

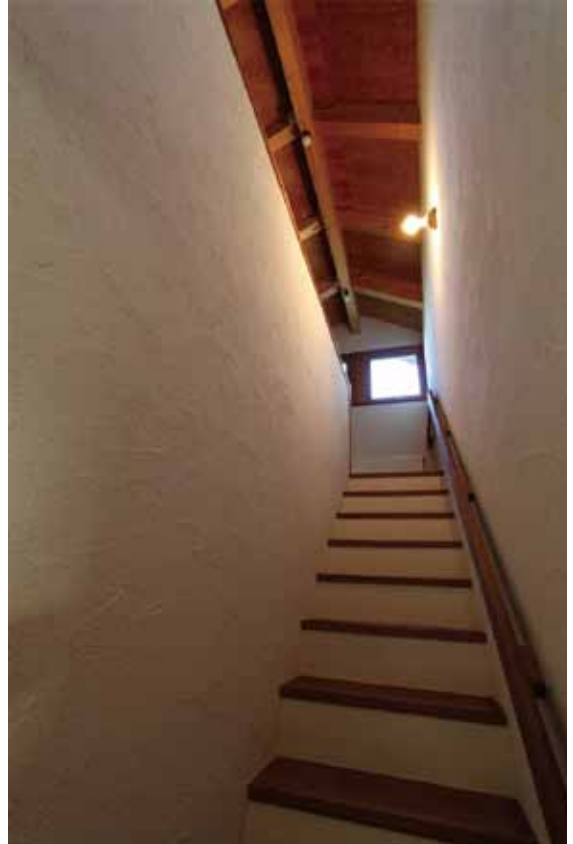
玉田棟梁の話 一人でなんでもこなさなきゃならないから、仕事の声がかかったからといって、すぐに受けるのは物理的に無理が生じるんですよ。建築中の現場もあるし、次にひかえている現場もある。はいきた、というわけにはいかないんです。

それに、家づくりには、お客





純和風の浴室は心地よいバスタイムを演出する



左右の塗り壁が印象的な屋根裏へと続く階段

様との相性が大事だと思ってるんです。

家って、究極の高価な逸品じゃないですか、それを打ち合わせしながら形にする共同作業だから、お互いの相性が大事だと思つんです。相性が合うか、合わないか。合わないのに無理して引き受けても、結果的には満足のない家はできないし、お客との付き合いもそれで切れてしまつて、つながりが生まれないしね。無愛想に思われても、お客様にいい家を提供したいからこそ、そこにだけは頑固にこだわってるんです。

天窓から 月を見上げる スローライフ

奥様の話 この土地に決める前に1か所、気に入った場所があったんですよ。リン

ゴ畑がすぐ近くでね、春にはリンゴの花が眺められるし、

秋は赤いリンゴが見えるからいいかなって思つたら、声をかけてみたその土地の近くの農家の方がね、「リンゴ畑が近いからな」って、あんまりお奨めでないような口ぶりなんです。聞いてみたら、ほら、リンゴの畑には農薬をまくじゃないですか、薬剤散布です、薬が



部屋にマッチしたヨーロッパ調のデザインの新ストーブ



玄関スペースは床も板張りに



壁に掛けられたアンティークの蠟燭立て

人の体には良くないというこ
となんです。なるほどと納
得しました。東京に住んで
者には、田舎のリノコ園って、
眺めるだけのきれいな風景と
してとらえがちですけど、地



塗り壁と木の天井が心地よい眠りを誘うベッドルーム

元の農家の人には生活の場ですものね。その土地をあきらめたら、代わりに、田んぼの向こうに岩木山がまるごと見えるいまの土地に恵まれたんです。

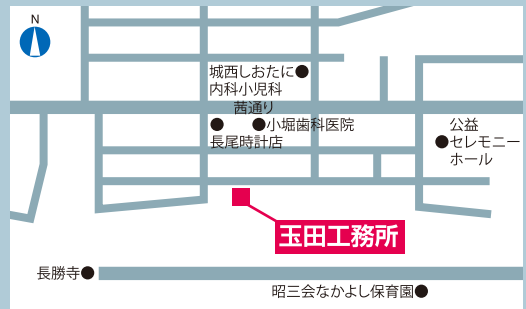
ご主人の話 土地を買った時点では、(リビングの掃き出し窓の)向こうに見える自動車道路の『津軽道』はまだありませんでしたから、家々の屋根が見えてたんですが、津軽道ができたおかげで、屋根が隠れて、田んぼの上に岩木山だけが見えるようになった一段とロケーションが良くなりましたよ。

屋根裏は全部、私の部屋として使っています。けっこう広いですよ。油絵も描いたりしてるからアトリエ兼書斎です。たまには寝ころぶがって天窓から月や星を眺めたりね。

おかげさまで、スローライフを満喫させてもらっています。

“津軽の家” 玉田工務所

弘前市大字南城西2-7-4
TEL.090-2604-2967
<http://www.tamada.e-arc.jp/>
E-mail : sumai@tamada.e-arc.jp



千葉建設

千葉俊則 様邸 (自宅)

- 黒石市牡丹平
- 2004年竣工
- 延べ床面積/71坪(236.28㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台、柱、腰壁、建具)、アカマツ(梁)など。



居間と台所との仕切りに、木の建具が引き寄せられてあった。板を1枚1枚、両側から交互に縦に打ち付けた(大和張り)板塀のような建具。引き出してみると、3間(5メートル46センチ)のあいだに6枚の建具が並んだ。ヒバの板の上部を1枚1枚斜めにカットしていて、6枚を並べると波のようにうねって見える。山並みをイメージした、と発案した千葉俊則棟梁が教えてくれた。ヒバの板を交互に両側から打ち付けているので、板と板との間に隙間ができ、そこから、自分の顔を見られることなく台所側から居間の様子が見える。そんな細部にも千葉棟梁の細かな配慮がうかがえる。

地元の木を使ってこそ 地元工務店の 家づくり

千葉棟梁の話 子どもが食事

中に、お客さんがくることもある。居間に通せば、台所のお母さんと話をしながら食事している子どもが気を使っている。家庭から会話を取り上げるような造りは良くないので、来客があったときにも、仕切りの建具を引き出せば、子どもは気兼ねなくお母さんと会話ができるわけだ。板と板の隙間から、どんなお客さんかなとか、話し声が聞こえなくなれば、もう帰ったのかなとか、様子が見える。そういうのも子どもに見れば一つの遊びのようなものだからな。

県産材とか地産地消っていう言葉が使われる以前から、私はヒバとか地元の木を使っていた。地元の木を使ってこそ、地元の工務店だからな。

地元の木で建てるということ



ヒバの木を両側から交互に打ち付けて山並みを表現した建具

とは、家も、住む人も、建てる職人も、地元の木に支えられているってことだ。木の恵みだよ。それを当たり前のこととして昔から建ててきたから、建てる家の全部が全部総ヒバというわけにはいかないにしても、その延長でいまも木の家づくりを続けているだけだけど、最近、新聞やテレビで、県産材を使おうとか、地産地消を進めようとか、見たりす

ると、家づくりの流れっていうかな、昔みたいに木を使う方向に変わってきてるんだなって思う。そりゃ、ついこの間まで、現場ですぐ使えるきれいにカンナのかかった外材が安く入ってきてたんだからハウスメーカーに限らず大工や工務店も外材を使ったものだよ。

でも、木のことだけじゃなく、私たちはもっと地元を大事にしなきゃならない、感謝しなきゃならないって思うんだな。あらためてそう強く思うようになったのは、いま(2010年)黒石の隣の田舎館村に1軒建ててるんだけど、その施主に、頭が下がる思いをしたからだよ。

妹が家を建てるから 相談に乗ってほしい

実はその施主さん、いまから40年前の職業訓練校のときの同期生で、1年間だけ一緒にだっただけで、6年前(2004年)に電話がかかってきて、「妹が家を建てる計画があるから相談に乗ってくれ」っ



アカマツの梁が交差する和室の吹抜け部分





和室の建具や腰壁、天井にもすべてヒバが使われている



エントランスホールは木のぬくもりが伝わってくる広々とした空間だ

て言うんだよ。なにしろ40年ぶりなんで、電話の声を聞きながら思い浮かんだのは訓練校のときの顔ばかりで、声と顔が一致しなくてな。私が黒石で大工やってること、知ってたんだね。見学会も開いてるし。

あのときの電話には驚いたね。びっくりもしたけど、感謝

もした。電話切ったあと、ありがたさが込み上げた。身にしみるありがたさだったな。40年前に訓練校でたった1年間だけ一緒だったということだけで、仕事もらったんだからな。地元って、ありがたいものだよ。つながってるんだな。

妹さんの件だけでもありがたいのに、こんどは自分の家

も建ててくれと言ってきたんだよ。妹さんの家の出来栄えが気に入ってもらったから、自分の家も、となったんだろうけど、考えてみりゃ、この地元で工務店やってるってことは、そついつい兄妹のつながり

も背負ってるということなんだ。責任だな。もしも、妹さんの家の出来がまいちだったら、大工を世話した兄と妹との仲がぎくしゃくしてくるだろうし、私たち大工にしてみれば仕事の



ヒバの風合いをそのまま活かした質感のある腰壁

紹介の声がかからなくなるってことだ。

地元の工務店は、地元から逃げるわけにやいかない。地元を背負ってるわけだな。だから、地元の木にこだわらなくちゃと思う。この土地に合ってるから50年も100年も山で木が育ってるわけだ。

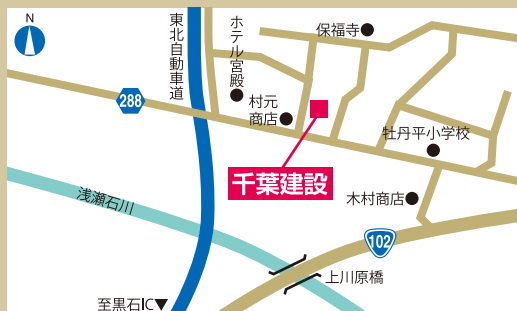
いままではヒバを中心に使ってきたけど、最近、スギもいなくなって思うようになってきた。色がやわらかいし、ヒバと組み合わせれば合うな。スギも積極的に使っていくよ。



建築中の田舎館の現場(2010年)

千葉建設

黒石市牡丹平字村ヨリ西2番地
TEL.0172-52-8336 FAX.0172-52-8336



日野建ホーム 株式会社

ユーザー訪問

木村晃巳様邸

- 青森市新城
- 2010年7月竣工
- 延べ床面積／31.59坪(104.66㎡)
- 使用青森県産材／青森ヒバ(土台、柱、床、羽目板、建具、造作材)、アカマツ(梁)など。



玄関前の壁に『K i m u r a』のネームプレートが取り付けられたしゃれた佇まいから、住人はいかにも若い年代で、内観もモダンな造りが連想されるが、ドアを開けると、外観から描くイメージとは逆の、ヒバの清々しい香りに包まれた、木の空間が迎えられる。

玄関ホール^の床板がヒバ。正面にのびる廊下の床も、内リビングへ入ると、そこまたヒバの空間だ。左側のキッチンから、正面のダイニング、右側のソファが据えられたり



しゃれた佇まいの玄関部分

リビングへと見渡す空間のすべてがヒバで仕上げられている。木のテーブルを置いたダイニングの上部の、吹き抜けになった内壁も

ヒバだ。1階だけでなく、階段回りも、2階の廊下も、子供室も寝室もヒバ。清々しい香りと、目にやわらかなヒバの木肌^に包まれた、住みながらにして森林浴ができる木の家である。

姉妹5人が日野建 今回の木村様邸で 6軒目

奥様の話 結婚してから、アパートで暮らしていましたが、新築のアパートだったので、あのクロス貼りの、化学的な臭い^が鼻について、最

後まで慣れませんでしたね。ですから、アパートから近くの実家へ行くと、ヒバの匂いが良くて、つい吸い込んでいました。隣の家(窓の外を指差して)が実家なんです。10年ほど前にリフォームして、そのときに部屋の床とか壁にヒバの板を張ったんです。その匂いが良かったものだから、アパートの化学的な匂いがよい鼻について。

母の姉妹は、みんな日野建(日野建ホーム)なんですよ。6人姉妹のうち、5人が新築したりリフォームしたりしたんです。隣の実家のリフォームをしたのも日野建です。



施主の奥様

お母様の話 日野建さんは、6人姉妹の末っ子が家を新築したときからのお付き合いです。一から、もう25年になります。一番上の姉は弘前で暮らしていますが、この団地（青森市新城の『しらかば団地』）に住んでいる5人のうち、2人が新築、3人がリフォームをしました。今回の娘の家で6軒目になりますね。



設計してくださった葛西さん（設計部・葛西克史一級建築士）が娘と同年代で、台所の壁に貼るタイルをヒバと違和感のない色のものを選んでくれたり、若い感覚で仕上げてくださいるのが良かったですね。
奥様（木村様）の話 子どもが来年の春に小学校に上がるも

台所、廊下、階段まわり、子供部屋…とすべてに青森ヒバが使用されている



見渡す空間のすべてがヒバで仕上げられているリビングルーム



のですから、それを機に家を建てることにしたんです。建てていただくのは日野建と決めていましたけど、よその会社の新聞広告やチラシで木の梁とかが見えている写真を目

にすると、建物よりも、その木が見たくなつて、見学に行ったりしました。アパートのクロスに違和感があったから、なおさら木に惹かれたんでしょつね。

木に囲まれた空間 住みながらにして 森林浴できる

伯母様の話 わたし、住宅が大好きなものだから、妹たち



ヒバとは一味違う趣の近代和風の和室



階段ホールに設けた書斎代わりのカウンター



ご主人のお気に入りのヒバの板が敷かれたベランダ

が新築するとかリフォームするとか、そんな話がきこえてくると、もう黙っていられないんです。自分が建てるような気分になってしまっって、間取りの打ち合わせなんかしてね。担当は、日野さん(日野高一社長)です。社長じまじまに相手をしてくださるのだから安心感は大きいですよ。日野さんって気さくなお方で、何でも遠慮せずに思ったことが言えるし、日野さんも応えて

くれましたから、妹たちにも推薦したんですよ。さつきも話に出ていましたけど、日野建で建てたのはここが(木村様邸)が6軒目なんですけど、室内にこんな一杯ヒバを張ったのは初めてですね。以前だと、日野建さんに限らずクロス貼りの家が主流でしたけど、でも、やっぱり木に囲まれているといいね。ヒバの匂いもね。だから、ここは森林浴ができる家だって姉妹が

よく集まるんですよ。

奥様の話 米の研ぎ汁を取っておいて、それで床を拭いています。そうすると、ヒバにつやが出てくるからって、伯母に教えられたんです。たまには、米ぬかを使えばもつといいとも。

最近の掃除の仕方って、細長い柄のついた道具で簡単にサッとできるものばかりですけど、大儀がらずに、雑巾で力を入れて拭くと、気分まで磨かれたみたいで、すっきりしますよ。木を使った家って、そついつ効果もあるような気がしています。

主人のお気に入りには、ベランダです。物干し場ですが、そこにもヒバの板が敷いてあって、手すりもヒバだし、洗濯物を干していなければウッドデッキ代わりになりますから、夏場はそこにひとりです座ってビールを飲んでましたよ。主人のくつろぎの場なんです。

FPの家 日野建ホーム株式会社

青森市柳川1丁目2-62
TEL.017-723-6161 FAX.017-723-6166
<http://www.hinoken-home.co.jp/>
E-mail: info@hinoken-home.co.jp

■第3回あおもり産木造住宅コンテスト優秀賞受賞



有限会社 やまの工藤建設

ユーザー訪問

竹浪正顕 様邸

- 北津軽郡鶴田町鶴田
- 2004年11月竣工
- 延べ床面積/70.28坪(232.79㎡)
- 使用青森県産材/スギ(柱)、ケヤキ(梁、造作)、イチイ(床柱、床框)など。



寺(教願寺)の門前に建つことから景観に配慮して、屋根は入母屋の和風外観。ドアを開けて入ると、玄関ホールには来客を迎え入れる格式ある和の空間が広がる。和の空間は、木の空間だ。ケヤキの一枚板の光沢ある式台。ホールの床は畳敷きで、正面の床の間風に設けた飾り棚にも、天井の照明をはさみ込む2本の飾り木にもケヤキが使われている。格天井が風格を添える書院造りの和室。6尺(180センチ)の高さにヒバの羽目板を張った居間。

ヒバ、ケヤキ、スギなどそれぞれの特徴を美しさを引き出し、大工職人の技で建てた堂々たる「木の家」である。

陽射しを防ぐ深い庇 木造建築の 知恵 大事に

ご主人の話 建てる家は、はじめから木の家と決めていま

した。家内がアレレギー体質ですから、自然素材の木を使うことが絶対条件だったんです。それと、建てるもらうのは工藤さん(工藤信行社長)。昔からの付き合いですし、工藤さんのところは木を使いた家づくりをしていますから、ぴったりでした。

最初は、父の建てた家につなげて増築する計画でした。でも、設計を担当して

くれた専務さん(工藤晃史専務)と打ち合わせを重ねてるうちに、増築だと何かと間取りをつくる上で不都合な点が出てきましたし、それにこれから先、長く暮らしていくのだから快適な居住性にこだわると、最終的には父の家とは切り離して建てることにしました。専務さんには何度も



格天井が風格を感じさせる書院造りの和室

図面を書き直してもらってすいぶんと手間をかけてしまいましたが、でも、その土地に合う最適な設計は一つしかないはずで、たどり着いたのがいまのこの家のかたちなんです。プランづくりは専務さんと膝を突き合わせましたが、そのあとの、外壁はどうするかとか、部屋の床とか内壁とか



畳の下に『炭化コルク』を敷いた居間は夏でも涼しい快適な空間

の仕上げについてはいっさい
専務さんにお任せしました。
構造や仕上げについては専門



天井にもふんだんに県産材が

家にお任せすべだと思ってま
したからね。専務さんが、打ち
合わせのたびに内装材の見本
など使う物を全部持ってきて
見せてくれたのには、安心し
たというより丁寧さに感心し
ました。細かな配慮ですね。
この夏のあのうだるような
猛暑でも、扇風機もつけなく
て済んだんです。家に帰って
きて、居間に入ると、すっと汗
が引くんです。実際、2〜3度
低くて涼しいんですよ。居間
の畳部分の下に、湿気を吸っ
てくれる『炭化コルク』という



夏の強い陽射しを防いでくれる深い庇



伝統的な和の技術が光る玄関スペース



自然素材を敷いているのと、それから陽射しを防いでくれる下屋の効果が大きいですね。庇が深いって、いいものです。日本建築の知恵の一つですね。

スギの磨き丸太を渡した深

い庇の下に、ヒバの濡れ縁があって、その先に庭がある。居間のケヤキのテーブルの前に座って、開けた掃き出し窓から庭を眺めていると、和みまですよ。伝統的な木造建築の知恵を大事にしている工藤さん

に頼んで良かったと思うときは、そんなくつろいであるときですね。

「おれにまかせとけ」 棟梁のイキな気風

工藤さん（工藤信行社長とは、ずっと前から鶴田町のサイクリング協会でご一緒しています）、顔馴染みでした。でも、サイクリングのときには、お互い、相手の職業なんて意識しないものなんです。あ、のときは、工藤さんを大工棟梁として強く意識しました



深い庇の下にあるヒバの濡れ縁



木の形状をそのまま活かした味わいのある階段の手すり



木と調和するモダンな要素も取り入れられたダイニングキッチン

ね。

うちの家内が児童館に勤めていたころのことです。児童たちが描いた絵を、正月に、神社に奉納することになって、絵を入れる額をどうしようかと思つてたら、「おれにまかせとけ」って請け負ってくれたのが工藤さんだったんですよ。タダでね。気風(きっぷ)が

いい、イキな職人氣質ですね。台風がきて、風で小学校の校舎が壊れたりすると、自分の孫が世話になつてくるからって補修を買つて出てね。これもタダで。

私も団塊の世代がまだ子どもだった時分には、工藤さんのような面倒見の良い棟梁が町や村ごとに一人はいて、家のことだけでなく、家族の相談事なんかにも応じていたものです。いわば地区の「相談役」だったんですね。

それが時代の流れで、ハウスメーカーが羽振りをきかせるようになってからは、「おれにまかせとけ」といった職人氣質の棟梁がいなくなつてしまつた。

それだけに、額の製作を進んで請け負ってくれた工藤さんの気風に触れたときには、新鮮な思いがしました。そういう気質の大工さんに建ててもらつた家なので、心底くつるげるんですね。

有限会社 やまの工藤建設

北津軽郡鶴田町大字境字北原73-24
TEL.0173-22-3448 FAX.0173-22-5472
<http://www17.ocn.ne.jp/~yamano-k/>
E-mail : yamano-k@fine.ocn.ne.jp

